

令和 6(2024)年度(通算第 2 回)
名桜大学ステークホルダー委員会 評価報告書

名桜大学

2024 年 12 月

名桜大学ステークホルダー委員会

I 名桜大学の概要

1 大学名、キャンパス所在地

名桜大学(設置者:公立大学法人名桜大学)
沖縄県名護市為又 1220-1

2 学部等の構成 ※2024年5月1日現在

【学部】	国際学群	国際学類	在学生数 646名/収容定員 870名 (※国際学群は、令和5年4月1日から募集停止。)
	国際学部	国際文化学科	在学生数 382名/収容定員 730名
		国際観光産業学科	在学生数 334名/収容定員 650名
	人間健康学部	スポーツ健康学科	在学生数 423名/収容定員 390名
		看護学科	在学生数 353名/収容定員 330名
		健康情報学科	在学生数 125名/収容定員 330名
【研究科】	国際文化研究科(修士課程)		
	国際文化システム専攻		在学生数 10名/収容定員 12名
	看護学研究科(博士前期課程)		
	看護学専攻		在学生数 12名/収容定員 12名
	スポーツ健康科学研究科(修士課程)		
	スポーツ健康科学専攻		在学生数 5名/収容定員 12名
	国際文化研究科(博士後期課程)		
	国際地域文化専攻		在学生数 10名/収容定員 6名
	看護学研究科(博士後期課程)		
	看護学専攻		在学生数 7名/収容定員 6名
【専攻科】	助産学専攻科	助産学専攻科	在学生数 6名/収容定員 6名

3 学生数及び教職員数 ※2024年5月1日現在

【学生数】 学群/学部 2,263名、研究科 34名、助産学専攻科 6名
【教職員数】 教員 118名(助手は含まない。)、職員 58名

Ⅱ 評価結果

1 総評

ステークホルダー委員会では、大学が取り組んでいる 1)地域貢献活動の取組「地域での健康支援活動」、2)教育活動の取組「学生を対象としたハラスメント防止策」について評価を実施した。評価は、2つの取組状況を示した「点検評価ポートフォリオ」の事前評価及び委員会当日の大学担当者によるプレゼンテーション並びに意見交換会によって行った。

名桜大学は、「学生の主体的な学び」を支援し、大学の特色ある教育を活かした「地域貢献」に取り組んでおり、大学として相応しい地域貢献活動及び教育活動を行っている。

以下に、2つの取組みについて、それぞれの優れた点、改善を要する点及び進展が望まれる点を列記する。

2 取組み別評価

1)地域貢献活動の取組み

■ 地域での健康支援活動について

「地域での健康支援活動」では、地域の健康課題の改善に向けて、学生・教員・住民の協働参画による活動を継続して取り組んでいることが確認でき、地域社会のニーズを踏まえた活動として一定の成果がある。今後は、看護学科以外の学生や卒業生等、活動の範囲対象を広げることで、「地域での健康支援活動」のさらなる発展が期待できる。

【優れた点】

- 地域住民が健康増進を考える良いきっかけとなっている。また、地域での健康支援活動に多くの学生が主体的に参加しており、参加学生は専門職に関する経験を積むこと（経験の蓄積）ができています。
- 学生と地域住民の交流や居場所づくりの場として、地域貢献につながっている。大学と地域社会を結びつけ、相互理解や信頼を醸成する大切な役割を担う、大変有意義な取組みである。

【改善を要する点】

- 地域住民に対し、今後、さらに踏み込んだ健康支援を行うには、個人情報の保護に配慮しつつ、収集したデータの蓄積、分析、可視化が求められる。
- 健康への関心が低い地域住民に対するアプローチのあり方について、自由な発想で新たな考案が求められる。

【今後の進展が望まれる点】

- 「健康状態の把握」、「啓蒙の場づくり」、「行動変容への伴走」を一気通貫で行う仕組みが構築できれば、さらに素晴らしい取組になると考える。

- データの解析や改善策の打ち手の多様化や効果向上のため、民間企業や研究機関との連携をさらに強化することが考えられる。それにより、学生への専門知見等の教育効果もさらに高まることが期待できる。
- 今後は、看護学科以外の学生や卒業生、他大学との連携(大学コンソーシアム沖縄)、地域の小中高生の活動への参画等、活動の場を広げることで、「地域での健康支援活動」の更なる発展が期待できる。

2)教育活動の取組み

■ 学生を対象としたハラスメント防止策について

「学生を対象としたハラスメント防止策」では、令和4(2022)年度から全学部学生を対象としたハラスメントに関する調査を実施していることが確認でき、大学の積極的な取組みとして一定の評価ができた。今後は、ハラスメントの実態を把握し、ハラスメント防止対策や啓発等の適切な対処法を考え、望ましい修学・研究環境を整えていくことで、ハラスメント防止体制を充実させることが期待できる。

【優れた点】

- 配布物のパンフレットに、ハラスメント相談、問題解決の流れがきちんと記載されており、具体的で分かりやすい。
- 学期開始時のオリエンテーションで周知する等、周知する機会を増やしており、学生の時からハラスメントに対する知識の習得に役立っている。

【改善を要する点】

- 学生実態調査等を踏まえて、入学時や学期毎のオリエンテーション等でハラスメントに関する周知を実施されているが、学生の関心度が低い。学生に対するハラスメントの講習会を開催する等、ハラスメントの定義や認識を踏まえ、学生が問題意識をしっかりと持てる対策が必要である。
- 学生にとっては、事務の相談窓口よりも教員の方が身近な存在かもしれないので、「教員に相談する→相談窓口を薦める」という流れを作る、または弁護士事務所など学外機関を活用した窓口の設置など、間口を広げる必要がある。
- アカデミック・ハラスメントの数値が上昇している点が気掛かりである。ハラスメントとなる行動について、教職員へより一層、教育を強化する必要がある。

【今後の進展が望まれる点】

- ハラスメント防止策の情報発信について、学生を巻き込んだ検討を行うことで、SNSを活用した広報等、効果的な発信方法が期待できる。
- 実際に学内で起こったハラスメントの事例(例えば、プライバシーに配慮する形で動画を作成し配信する等)が公開できるのであれば、学生に対し、実際にどのように解決がなされたのかを発信することができる。それにより、学生がハラスメントに対する理解促進につながり、相談窓口への親近感や信頼感を高めることが期待できる。

■ 令和 6 年度名桜大学ステークホルダー委員会の実施内容

- 9 月 18 日(水)～ 名桜大学ステークホルダー委員会委員に対する委員会開催通知
10 月 16 日(水) 及び出席依頼
- 10 月 28 日(月) 「名桜大学点検ポートフォリオ」に対する評価の依頼
〔名桜大学 → ステークホルダー委員〕
- 10 月 28 日(月)～ 「名桜大学点検ポートフォリオ」の事前評価及び意見の提出
11 月 8 日(金) 〔ステークホルダー委員 → 名桜大学〕
- 11 月 19 日(金) 「名桜大学点検ポートフォリオ」に対する事前評価及び意見等の集
計・報告 〔名桜大学 → ステークホルダー委員〕
- 11 月 23 日(土) 令和 6(2024)年度(通算第 2 回)
名桜大学ステークホルダー委員会開催
- 11 月 25 日(月)～ 名桜大学ステークホルダー委員会評価報告書の作成
12 月 20 日(金) 〔ステークホルダー委員 → 名桜大学〕
- 12 月 23 日(月) 名桜大学ステークホルダー委員会評価報告書を学長へ提出

■ 名桜大学ステークホルダー委員会 委員名簿

<委員長代理>

山中 佑美 名護市企画部 部長(自治体関係者)

<委員>

宮原 正弘 KPMG コンサルティング株式会社代表取締役社長 兼 CEO(企業関係者)

池田 哲平 株式会社琉球新報社 北部支社
北部報道グループ長(報道・調査関係者) ※代理出席

嘉数 順子 名護市 地域経済部地域力推進課 社会教育指導員(地域協力者)

遠越 学 沖縄県立名護高等学校 校長(教育関係者)

赤嶺 妃美紀 名桜大学 国際学群 3 年次(名桜大学 学生)

島袋 孝志 名桜大学 看護学科保護者(名桜大学 保護者)

名嘉山 兼志 フリーランス(web デザイン・動画制作・書道)(名桜大学 卒業生)

池原 秀人 名桜大学 事務局長(名桜大学 職員)

前川 美紀子 名桜大学 地域連携機構長(名桜大学 教員)

※ステークホルダー委員会の委員の任期は、2 年とする。

■ 委員会当日の様子

委員会当日は、1)地域貢献活動の取組み「地域での健康支援活動」、2)教育活動の取組み「学生を対象としたハラスメント防止策」について、大学プレゼンテーション及び意見交換を実施した。

